

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会
盆栽・水石文化を世界（無
形文化）遺産に登録する
運動を推進しています〕

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協会理事
藤岡愛石会会長
西山 巍

同窓会・絆・したたかさ

10月の下旬は同窓会行事が続きました。大阪に出かけて大阪市立大学法学部・昭和36年

入学同期会に参加しました。卒業年次ではなく入学同期会としたのは、留年した同僚を考慮した同僚の配慮だったようで

す。物故者への黙とうで始まった懇親会、いつまでも自分だけは追悼する側に居ようと決意する「したたかな」参加者21人でしたが、病気、体調不良の近況報告が続出するにつけ、来年の再会を懸念する始末です。しかし道遥歌を唄った閉会の時刻には、すっかり青い時代に戻っていました。

同期会の数日後は全学部同窓会愛知支部の旅行会でした。少な目の参加者15人が愛知県

会社です。鉢物を一目見ようと参加した私ですが、家内はお肌の若返りをとの「したたかな」動機で同行しました。三崎順一社長にご案内いただいた坑内の切羽は大変興味深いものでした。
2つの同窓会に参加し、あらためて朋友長幼の絆を強めたいと思った次第です。
ちようどこの時期（10月24日）に「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコの無形文化遺産に登録されることが内定しました。男鹿のナマハゲなど全国8県10件の伝統行事が季節ごとに盛り上がることでしよう。

今後は2年に1件の申請ルールのもとで、

次は2020年「伝統建築工匠の技…木造建

築物を受け継ぐための伝統技術」が登録を目

指しています。建造物修理、木工、瓦茅葺、

漆塗、左官等の14件の保存技術がその対象で

す。文化庁の申請書には、「神々の行事」と

「木造建築技術」は、いずれもが世代を超え

て歴史を確かめるための「人々の絆」の証で

あり、世界遺産への登録が国際社会での文化

保護の促進に貢献するものである、と述べら

れています。「水石と盆栽」も然り、「絆の文

化」です。世界遺産を目指して2019年を

「めげずに」、「したたか」に企画したいと思

います。石友のご協力を期待しています。



大阪市立大学法学部同期会（2018.10.23 /大阪市）



大阪市立大学愛知支部同窓会（2018・10・27 /東栄町、セリサイト鉦山抗口）

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会
盆栽・水石文化を世界（無
形文化）遺産に登録する
運動を推進しています〕

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協会理事 西山 巍
藤岡愛石会会長

平安愛石会石展・百万遍

「言はむや江戸を東京と」：日本史の年号
覚えの語呂合わせ、「1868」年は維新の
年です。

昨年2018年は明治改元から150年
の節目で、多くのイベントが開かれました。
「華ひらく皇室文化展」もその一つです。出
陳者のお一人S氏に勧められて京都文化博物
館を訪問しました。重要文化財を含む120
余の皇室の宝物に明治宮廷文化の絢爛豪華さ
を垣間見ることが出来ました。

急に寒くなった11月下旬のこの日の訪
問先は、京都市勧業館の「日本盆栽大観展」
です。例年通り大賑わいの会場内を2、3周
した後は、じつとりと汗ばむ熱気でした。個
展コーナーの3席、小林國雄氏の「これか
ら」と鈴木伸二氏の「原点回帰」には今後の
盆栽界牽引の意気込みを感じ、慶雲庵の「明
治の夜明け150年・振り返る日本の歴史」
からは盆栽界の迫力を感じましたが、私に
は、松や真柏の傍に鎮座する銘石の存在感が
印象に残る大観展でした。

欲張った展示会巡りの3つ目は、百万遍知



（左）平安愛石会石展会場（百万遍知恩院）

（右上）石展会場からの眺め

（右下）お会いした2人。室田幸男氏（洛北愛石会・右）と木戸義尚氏（京都エビネ会・中）

恩寺での「平安愛石会石展」です。広い境内
で行き会ったお2人（写真）にご案内いただ
き、会場の大方丈へ到着しました。「京の石
グループ」との共同開催、20石とやや少な目
の展示でしたが、石庭を前にした広間の畳上
には地元の銘品が輝いていました。ここにも
会員の高齢化、山末会長が悩みを語ってくれ
ました。

百万遍知恩寺は浄土宗の「大本山」と門
柱に表示されていました。我が家も浄土宗、
代々のお墓は紀州の専修寺にあり春秋の彼岸
にお参りしていますが、先祖の供養は「総本
山」知恩院にもお願いしました。自宅の仏壇
へはご近所の法雲寺ご住職が読経してくれま
す。

私の知識と信心の薄い故でしょう、少々混
乱を来たしました。総本山・大本山・末寺の
関係、14世紀に念仏百万遍で寺号を下賜され
た経緯、室町時代の知恩院との本山抗争を
知ったあとに、法雲寺の石柱に「百万遍末」
の文字を発見したことで私の混乱は解消しま
した。本末転倒もなくなりそうです。

南無阿弥陀仏に代わり「無形文化遺産」を
百万回も唱えながらPJを進め、大願を成就
したいと思います。「合掌」！

小さい石の展示会

形や質感、色合いなど、それぞれの美しさを、それぞれの物語が宿る石。自然が生み出した石は、古来より多くの人々に愛されてきました。今展では各地の愛石家所蔵の小さい石、約100石を展示いたします。会場となる善来寺は、大正時代に建てられた町屋建築で市の有形文化財にも指定されています。建物見学も併せて、ぜひ足を運んでください。



2019年
3月9日(土)・10日(日)
9時-16時 (10日は15時まで)



主催：愛石連合会
愛知 / 安城石協会・石研会・知多水石会・中沢水石会
天竜水石会・土岐石愛好会・長久手愛石会・藤岡愛石会
三重 / 桑名愛石会・北勢愛石会
後援：豊田市、豊田市教育委員会、中日新聞社
全日本愛石協会、日本水石協会、月刊「愛石」

お問合せ：愛石連合会 幹事団体/藤岡愛石会
西山 Tel. 0565-71-4168
善来寺 豊田小坂本町1-25 豊田産業文化センター内
Tel. 0565-33-1531



上は「小さい石の展示会」の準備会で
左はそのチラシ

月報

「世界遺産」プロジェクト

めげずにやりぬく

〔盆栽 水石文化保存会〕
盆栽・水石文化を世界(無形文化)遺産に登録する運動を推進しています

「三た話」と「小さい石の展示会」

「使った・治った・効いた」と言う「三た話」をご存知でしょうか。薬効に関する微妙なお話です。

薬は長期の実験や治験を経て使用が認められるものです。しかし、ある薬がある病気の治療に有効であったのかどうかの判定は非常に難しく、患者の個人差や環境、投薬のタイミング等が複雑に作用しているのだ、と医師が言っています。

一方「薬」ではない健康食品やサプリメントが巷間で大はやりです。新聞雑誌には類似商品の広告が競い、いずれもが、「治る・効く」とは言わないまでも、病状改善への効能を謳いながら高齢者に迫ってきます。私も家内の勧めで1、2のサプリメントを摂っていますが「効いている」のでしょうか。医師が続いて述べています。

「イワシの頭も信心から」効くと信じなければ効果がないと。その通りです。医師(石?)と仲良くしながら、今朝もサプリメントの錠剤を青汁で飲み干しました。「まずい! もう一杯!」

(二社)全日本愛石協会副理事長
(二社)日本水石協会理事
藤岡愛石会会長
西山 巍

さてさて、活力をなくした水石界にはどんな薬が効くのでしょうか。昨年夏に開催した「水石文化座談会」では、その病状を診立てるにとどまりましたが、異口同音、加齢による体力減退と疲労蓄積、子育て下手、神経不全、不感症、等々私達が変調に気付きながら放置してきた症状が確認されました。「世界遺産」という薬は、こうした病状改善には多分よく効くものなのでしょうが、投薬に至るまで時間がかかりそうです。

しからばと、このたび「小さい石の展示会」は「面白い」のタイトルで小物石展を企画しました。疲労回復のためのビタミン剤のつもりです。藤岡愛石会からの唐突な呼びかけにもかかわらず、愛知、三重の9団体に呼ばれた愛石連合会が発足、当地初めての合同展の開催が実現します。愛好者だけの行事でなく、子供たちや女性が石に興味を持てるイベントにすべく、展示会の名称も「口語体」にしました。コピーライター氏は「小っちゃな」を勧めましたが、石友の皆さんの矜持に触れるかと思いい「小さい」とどめました。石文化の深淵性と石趣味の面白さの発信は悩ましい課題です。水石界の病状改善への「三た話」が出来ればよろしいのですが。3月9日・10日、愛知県豊田市内での開催。お越しくください。

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会
盆栽・水石文化を世界（無
形文化）遺産に登録する
運動を推進しています〕

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協合理事
愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

西山巍



「愛石クラブとよた」発進

昭和は64年、平成は31年、このところ改元をひかえて時代を振り返る企画や報道が多くなりました。新元号が気になるところです。

平成8年に発足した「藤岡愛石会」も「愛石クラブとよた」と改名することになりました。たまたま改元のタイミングと合ってしまいました。当会の副会長・田辺好文・中島光夫両氏が豊田市とのパイプを強める活動の中で、会の知名度の低さを痛感したことがそのきっかけです。初代会長・山内義計氏（87歳）、2代目・日比谷照夫氏（85歳）が築いてきた団体を私（76歳）が5年前に引き継ぎました。さらに88歳の大平政一、安藤利春両氏を加え4人の長老達がかくしゃくとして河原を闊歩しています。我々「若者」が不老長寿の気をいただいています。会員数26人、平均年齢72歳、田舎町の高齢集団ですが、常に変化を楽しみ全国に発信する「愛石クラブとよた」でありたいと願っています。発進！

愛石2月号に長沼僕石氏が「世界遺産登録と次世代への存続」という貴重なコメントを掲載されました。多くのご指摘に得心し、氏の慧眼に敬服いたしました。全日本愛石協会

の力不足は同感です。地方団体との連携を強め水石界活性化へ強く進まなければなりません。活動のひとつ、世界遺産（無形文化遺産）PJは活力結集の旗印であります。最終目的ではありません。文化保存の仕組み作りを目指す中の1目標であると位置付けています。目的、目標、施策につき、しっかりとした理解活動を進めたいと考えます。

現下の歌舞伎離れに関して、日本人のDNAが「飛び火」し、伝統文化は必ず継承されていく、との玉三郎さんのご意見の紹介部分は大変興味深いものでした。

しかし脆弱、弱小な水石界にはこうした樂觀は禁物かと思うのです。かつてオオカミが来ると言っていた石ブームの衰退はそれほどでもない、との氏のご指摘に社会の高齢化を重ねますと、今あるこの世界は40年前の石キチが支えているだけなのです。10年20年先の姿を想像するに空恐ろしさを感じます。オオカミは引き続き見張らなければなりません。自然を愛する石友の節度ある探石行動には、「河川法25条」の制約がないことを申し添えます。

世界遺産へ邁進！

石展会場のシンボルだった会員が制作した石版

全国愛石家・愛石団体訪問

愛石譜

旧藤岡愛石会

愛石クラブとよた



毎年5月に展示会を開催している会場の「つどいの丘」にツツジが咲き誇る（撮影／西山巍）



「つどいの丘」外観

平成8年に発足した藤岡愛石会が、今年3月、「愛石クラブとよた」に名称を変更した。
初代会長・山内義計氏、2代目・日比谷照夫氏を引継いで西山巍氏が現会長に就き、ベテラン揃いの会員26人と共に各地の石友・石会と交流しながら展示会、探石会、研修会を楽しんでいる。
4年前に「水石文化の無形文化遺産登録」を目指した活動を開始、盆栽界とも連携をとりながら全国に呼び掛けている。会員の平均年齢は72歳であるが、若い気持ちを維持して発信し続けるために頑張っている。

新企画「愛石譜—全国愛石家・愛石団体訪問」は、各地の愛石家または愛石団体を訪ねて、自慢の石を紹介させていただくという内容です。表紙と本文8頁で構成します。当面は「新名石探訪—都道府県別の石」と並行で掲載します。（詳細は目次頁を参考にしてください）



会員が一致協力して「盆栽水石世界遺産」登録運動を推進している



御船石 銘「蓬来泉」 20×8×13 西山 巍



瀬田川石 32×11×13 田辺好文



佐治川石 銘「秀峰連山」 42×9×12 落合東一



土岐石 銘「古代」 13×9×5 山内義計



雨生山石 銘「里の家」 14×13×11 津坂秀雄



古谷石 銘「夫婦山」 22 × 12 × 11 大平政一



榎田川石 24 × 21 × 15 田辺好文



奈良井川石 銘「清湖」 16 × 13 × 10 日比谷照夫



越前石 銘「花山」 46×24×17 日比谷照夫



四万十川石 15×3×7 西山 巍



三倉馬蹄石 20×23×15 津坂秀雄



揖斐川石 銘「石峰連山」 42×11×11 安藤利春



土岐石 銘「風雪」 11×10×6 山内義計



安倍川石 銘「心」 10×5×6 松尾繁延



雨生山石 銘「流麗」 20×7×7 山田 茂



天竜川石 銘「富士」 11×9×3 松尾繁延



白山紋石 23×16×10 矢野新太郎



粕川石 銘「秀拔連山」 50×11×13 安藤利春



静岳石 銘「穹天峰」 25×12×12 山田 茂



矢作川石 銘「おぼろ」 15×7×7 落合東一

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会
盆栽・水石文化を世界（無
形文化）遺産に登録する
運動を推進しています〕

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協合理事
愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

西山巍



展示会場風景（喜楽亭1階の一部）

「小さい石の展示会」始末と「愛三岐」

今、全国で開かれている石展は年間約180回。そのうちの130回が4～6月、9～11月の開催です。春秋のいい季節に集中することは当然です。全日本愛石協会の「関西展」と日本水石協会「日本の水石展」は1月か2月に開催されますが、いずれもその品質の高さがイベントを定着させています。

寒い季節の行事閉期に小規模の展示会を行うおうと、旧藤岡愛石会（改名／愛石クラブとよた）で話し合ったのが昨年の11月11日。その後、コンセプトを整理して近隣10団体に共同開催を呼びかけました。9団体からの賛同を得て、愛石連合会主催「小さい石の展示会・石は面白い」の3月開催を決めたのは12月17日のことでした。

会場は愛知県豊田市内の有形文化財の和風建築「喜楽亭」、延べ床面積150㎡と、小物・寸石の展示場としては手ごろなサイズと合点したところから難儀なこととなったのです。出品申し込み58人、予想を倍する250石の大人気、嬉しい誤算でした。急遽、廊下、通路を展示スペースに充てる算段をしたものでした。

展示会当日の会場は壮観、全館が石の館に变身しました。一部の玄人筋から厳しい視線

も感じましたが、来場者のほとんどに満足を与え、子供たちや女性陣の興味をそそったことは確実でした。初めての合同展を盛会のうちに終了することが出来ました。互いに石展を訪問し合うだけの関係の10団体に「身内感」が芽生えたことも大きな成果の一つではないかと感じました。

北海道、茨城、福井の遠方から出品と来場いただいた皆様のご支援、展示会運営関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。3月9日（10日・来場者571人（小中学生49人、女性175人）アンケート回答166人、世界遺産署名244人）。

終活の「年頃」を迎え、石の趣味と文化を守らねばとの想いは募るばかりです。今回の俄か仕立ての愛石連合会、さてはどうあるべきでしょうか。10団体が知恵を出さなければなりません。

馴染み薄い呼称ですが、東海3県を「愛三岐」と呼びます。今回、お声掛けが出来なかった岐阜県の愛石団体へは明日にでもアプローチして連合会の基礎を固めたいと私なりに思っているのですが、愛知、三重、岐阜の皆さん、いかがなものでしょうか。ご一緒に世界遺産登録に邁進しましょう。Go! Go!

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会
盆栽・水石文化を世界（無
形文化）遺産に登録する
運動を推進しています〕

（二社）全日本愛石協会副理事長

（二社）日本水石協合理事

愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

西山巍

5月からは「令和」。昭和天皇の崩御直後の「平成」改元と異なり、4月の新元号の発表は列島の花の季節をさらに華やいだものに変えました。「平」と「和」で繋がる2つの元号、時代の節目に国の弥栄を祈りたい気持ちが強くなります。明るい話題は大歓迎です。

展示会」の直後に、「愛石クラブとよた」は4人の新人会員を迎えることが出来ました。岡山の山陽愛石会と近隣の中京水石会も、同期にそれぞれ3人の入会があったと伺いました。27歳の女性会員の入会を、山陽の内田寛さんと光延正雄さんのお2人が大喜びで語ってくれました。

愛石界にも明るいニュースです。3月に開催した「小さい石の

愛石団体への入会は、無理強いをしても実現するものではありません。希望する本人の「その気」と、勧める側からのそつと背中を

最年少会員誕生・節目・潮目

押す「本気」がかみ合わなければならぬのです。各団体の地道な努力が受け入れられたものと思います。

全日本愛石協会にも新人の報、少し潮目が変わったかと思いたいところでは。

さて、我が愛石クラブとよたへの今回の入会4人は、73歳と60歳の紳士2人、そして現役ビジネスマン42歳の父と4歳の男の子です。JRには、6歳未満の「幼児」の運賃無料規則がありますが、当会にはありません。想定外の出来事に「困った」と悩んでいましたが、親子での入会を希望されました。

ともあれ、石好きの全国最年少会員の誕生です。これは当会の潮目を変えるであろう「事件」です。
名前は奥村瑠那くん。私が差し上げた石がきっかけで興味を持ち始めたとのこと。春日井市の自宅近くには庄内川、毎週末の探石を欠かさない2人です。

先日自採の土岐石持参で我が家を訪ねてくれました。父君には侮れない探石眼があるようで、いくつかの良石を揚げています。瑠那くんの石ころ収集は、家族の後押しで益々盛んになりつつあります。

2人が奔放に石趣味を謳歌しながら、正統な石文化を引き継ぐ愛石家に育ってほしいと願っています。20年、30年後の雄姿を夢見ます。

ルナくん、頑張れ！



（上）ルナくん、庄内川で探石中。（下）ルナくん、養石中



めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

西山巍

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協合理事
愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

松山まさる、一条英一、三谷謙、長い下積み時代の大物歌手の改名履歴です。4度目の名前で「よこはま・たそがれ」がブレイクし五木ひろしさんが誕生したのです。ご苦労の経験からでしょう、円満な人柄がテレビの表情や所作、会話に滲み出ている好感度の高い芸能人です。

縁起を担ぎ業績向上をねらうっての芸名、し

こ名や社名変更は各界で行われています。しかし、たゆまぬ精進なくして成果は望めません。それを百も承知で最後は「神頼み」の改名なのでしょう。「いいツキをひろう」と念じて名付けた「五木ひろし」さん、ますますのご活躍を。

比較が憚られますが、「愛石クラブとよた」はこの3月に旧「藤岡愛石会」を改名しました。現代風の名称で露出度を高め、地域への密着度を強めたい動機でしたが、その後、地元での2つの石展行事を経て強い順風を経験しています。

改名の縁起でしょうか、3月の「小さい石の展示会」後に4人、5月の当会「愛石展示会」の開催期間中に5人、この2カ月で計9人の新入会員を迎えることが出来たのです。一挙多人数の入会は事件ですが、新会員の若さと3人の女性の入会は大事件です。

2年前、会員倍増若返り計画を立ち上げたものの成果を出せなかったプロジェクトですが、会員全員のめげない気持ちがようやく世間に通じた始めたのでしよう。早速に新会員の探石体験のために天竜川を目指しました。各種のオリエンテーションプログラムも用意しようかと意気込んでいます。

いいツキをひろう

時を同じくして始まった月刊『愛石』の「愛石女子」と「ミニ水石」の企画は時宜を得たものと思います。そよやかですが石趣味界に順風が吹き、潮目を変えつつあるのかも知れません。

これもまた憚られますが、改元も時代の改名、令和は万葉集で始まりました。ほんの数首だけですが、私の大好きな歌があります。その一つが松山で潮目を詠んだ額田王です。
熱田津に舟乗りせむと月待てば
潮もかなひぬ今はこぎ出でな

天智天皇が目的の地へ船出する勇壮で力強い情景です。この「月」と同様、愛石界にも「いいツキ」が出ればと思うばかりです。いい石を「ひろう」ことも念じながら。



（上）石展終了後の新会員紹介。（下）八木哲也衆議院議員と新会員を囲んで

年代	愛石クラブとよた 会員構成			
	2019年2月		2019年5月	
	男	女	男	女
80	5		5	
70	12	2	12+1	2
60	4		4+2	
50	1		1	1
40	2		2+1	1
20、30				
10				1
~9歳			2	
会員数	26人		26+9 (=35)人	
平均年齢	72歳		64歳	

（赤字は今年入会の人数）

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会
盆栽・水石文化を世界（無
形文化）遺産に登録する
運動を推進しています〕

西山巍

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協合理事
愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

先日、同窓会に参加しました。和歌山県
海南市立第3中学校、1958年の卒業生
220人のうち50人が集いました。私は30年
ぶりの出席でしたが、学友の皆さんが、それ
ぞれに「いい歳」をとっていました。思い出
せなかつた顔と名前も再会後数分で識別、15
歳のころの思い出を和歌山弁で語り合いまし

た。「お互い」とか「我々」を意味する「あ
がら」と言うこの地の方言が新鮮に聞こえて
きたものです。
会場は市街地南部の山裾にある神社に近い
料理屋でした。この藤白神社は飛鳥時代から
の歴史を持つ国指定史跡で、周辺の熊野古道
の沿道には万葉ゆかりの歌枕が多く、大いに

円座石・語り部・あがら



円座石とその説明文

ロマンを感じる所です。

宴会開始前に家内と2
人で境内を散策し、本殿
東隣の祠に懐かしい「亀
石」（150cm）を見つ
けました。子供のころは
恐る恐る近づき、こわご
わとこの石を見た記憶が
ありますが、当時は円座
石（わらうだ石）、禁酒
祈願石との説明板はな
く、今回初めてそれを知
り眺め直しました。「わ
らうだ」は藁で編んだ円

座のこと、「だ」は「ざ」の和歌山弁発音で
なく、藁蓋（わらふた）が変化した普通名詞
であることを理解するまでに少々時間をかけ
てインターネット検索をしました（円座＝藁
蓋↓わらうだ＝わらうだ）。

帰宅後「天皇家と自然石文化」（佐藤観石
氏著）を読み直し、円座石は磐座（いわく
ら）であることも確認できました。「石」と
いう「#」（ハッシュタグ）キーワードも面
白く展開するものです。

紀伊半島南部の熊野古道が2004年に世
界遺産に、2017年には北中部の紀州路参
詣道が日本遺産に登録され、熊野三山への道
の遺産が繋がりました。歴男歴女の人気を得
たのでしよう、神社境内には「海南市語り部
の会」のボランティアが待機され、この地域
の歴史を語ってくれました。

石文化の保存、石趣味の普及活動にも多数
の「語り部」が必要です。愛石団体の代表者
の皆様はすでにその任に当たっておられます
が、今後の活動につきご意見を頂きたいと思
います。全国300団体、「あがら」の意識
で結び付けば、世界遺産への道も開けること
でしょう。石の「語り部」ボランティア募
集。（b_s_sekaiisan@yahoo.co.jp）

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協合理事
愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

西山巍



（上）庄内川にて、（下）天竜川にて



（右）湘南海岸にて
柏木氏の蔵石の一部



越波・湘南海岸・月刊『愛石』

6月は探石三昧。2日に天竜川、23日には庄内川、当クラブの2回の探石会は新入会員の参加と土岐石愛好会幹部のご指導を得て盛会でした。さらに、月半ばの17日には湘南海岸を訪ねました。

伊豆半島の東西には相模湾と駿河湾、いずれも海岸すれすれに幹線道路が通る産業と観光の要衝ですが、ひとたび荒天に見舞われると道路は通行止めになり、大波が「越波」し、時には、こぶし大、人頭大の岩石を道路上に降らせませす。以前、道路会社の現場事務所に展示されていた「越波石」を見学して以来、「飛ぶ」前に捕えてみたいと思っていたのです。

そんな折、平塚市の柏木利雄氏からお誘いがあり、ようやく湘南での「越波前」探石が実現いたしました。氏は昨年11月に個展「湘南海岸石あそび心展」を開催されたベテラン愛石家です。

前日東京宿泊の私はJRで平塚駅へ、駅前で柏木氏と合流。愛石クラブとよたの会員3人も愛知から車で駆け付けました。大磯海岸にご案内いただき、波の音を聞きながらの1時間、その後、ご自宅にお邪魔して、屋内外にあふれる小物の名石を堪能した1日でした。お土産にといただいた数石、有難うございま

した。
面識のなかった石キチが「石友関係」になることができたのは、柏木氏の「個展」と私共の「小さい石の展示会」が「小物石」というキーワードで繋がった結果です。月刊『愛石』の誌面が取り持つご縁です。

今や、この専門誌は愛石界の動向を知る随一かつ唯一の出版物となりました。が、購読者の減少で立畑編集長の「泣き」が大きくなってきました。愛石人口が着実に減少しているのです。

先日、近県の7団体に接触する機会がありました。4団体が解散または活動停止状態でした。会員の高齢化と後継者不在が原因です。明日は我が身、明後日には各地団体にも起こりうる事態です。この世界、こんな時だからこそ情報誌が必要なのです。若い世代へはデジタルでの発信を検討し、併用しながら月刊『愛石』を守らなければなりません。

全日本愛石協会の定款と会則には趣味と文化の振興に加えて、機関誌・月刊『愛石』の販促を事業目的に掲げています。協会と全国愛石団体が愛石社と連携協力し「購読者倍増計画」立ち上げませんか。協会理事の皆さんの率先を期待します。購読者数は文化普及のバロメーターです。

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会
盆栽・水石文化を世界（無
形文化）遺産に登録する
運動を推進しています〕

西山巍

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協合理事
愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

ヘタでいい、ヘタがいい



絵手紙教室・若宮会を訪ねました。豊田市の肝いりで2003年に結成されたサークルです。会員数18名。指導者は、以前にもこのコラムに登場していただいた宇野政博氏（82歳）。教職経験者で、人権擁護委員も歴任された地元の名士です。氏の計らいで見学の機会を得て、絵手紙制作の始終を眺めました。

この日の題材は、私が持参した「石」です。ほのかな墨の香り、対象を見立て、筆を立てて描く輪郭、机上には彩色の七つ道具、静かで和やかな雰囲気の中で、30分もすれば絵が完成し始めます。余白に添えられた言葉はまさに点睛、作者の想いが短いメッセージに凝縮されて出来上がりです。

全員の作品を前に、宇野氏が講評して2時間間の教室が終わりました。「見立て」から始まり「言葉」探しをする楽しみ方は、石と同様、面白い遊びの世界です。それにしても皆さんの作品のすばらしさには驚きました。「上手い」ものです。

日本の絵手紙創始者は小池邦夫氏（78歳・書家）です。絵を添えて便りを送ることは古くから行われていたことですが、その作法と手法を集大成し、体系的に興味のビジネスモデルに仕上げた人物です。

（上）若宮会のみなさんと
（下右）絵手紙制作風景、（下左）出来上がった作品

「ヘタでいい・ヘタがいい」をキャッチフレーズにし、描くのは形ではなく「想い」である、絵や文字は心があればうまくなる、心配無用と入門者の心と肩の力を抜くことでの趣味が広がっていったのです。昭和53年から自らの作品、数万枚を発表したことが引き金になり、日本に絵手紙ブームが起きたということです。

昭和53年といえば、十数年前からの石ブームが終焉にさしかかった頃でした。その間に発行された多くの書籍は、石の面白さを発信する先達の熱意であふれていましたが、入門予備軍への心に切り込むメッセージが少なかったように思います。「ヘタでいい」と言い切るほどの大胆さはなく、逆に石は「これだけなければならぬ」との制約的な解説が新人参入の枷になっていたのではないかと今になり感じた次第です。

ブームから半世紀を経た今、世間に石の面白さを再発信しなければなりません。発信相手は瞬時・デジタル・SNSの世代です。さてどんな算段がよろしいのでしょうか。と、こんなことを「想い」ながらの一日でした。絵心のない私には、絵手紙は無理。やっぱ「石でいい・石がいい」

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

西山巍

お元気な長老たち・老いの品格



ようやく猛暑が収まり涼風の季節に差しかった8月末、「愛石クラブとよた」の研修会と交換会を開催しました。まずは、「木粘土の小物作台」をテーマに、会員最高齢の大平政一氏（89歳）が研修会を仕切りました。台座の完成品を前にした制作の勘所の解説には、参加者が熱心に耳を傾けました。100円ショップで手に入れた小道具が、作台の「工具」に生まれ変わる一工夫のアイデアは大変興味深いものでした。

この日の次のイベントは交換会、会員持ち寄りの五十余石、愛石社からも5石提供いただき、盛会にオークションを行いました。1時間で完売、20kgを超す大物石も落札され、ほっとしたものでした。古美術商資格者で当クラブの副会長、田辺好文氏（70歳）が奮闘し、少額ながらクラブへの清算金の「入金」を喜び交換会を終えるはずが、当日、新たに男女お二人の「入会」があり、全員大喜びのもとで行事を終りました。入金と入会、会場「つどいの丘」のご利益でしょうか。32人が集いました。

当クラブには今年11人の入会があり、総員37人の中堅団体となりました。大平氏はじめ八十歳台後半の4人の長老方がお元気に後進

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協合理事
愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

を指導しています。その昔はリュックに入りきれない大物石を谷底から揚げた猛者達ですが、最近はずっかり小物へと転向されています。この強靱な体力と、したたかな精神はどこから来るのでしょうか。

十数年前から「老い」に関する書籍が目につくようになりました。2008年発行『老いの品格』（松永伍一著）は、老後本の走りだったように思います。会社生活が終わりに近づき、私自身はまだ「老い」を感じなかった頃に「老後」を覗き見る気持ちで一読した文庫本でした。いま喜寿を迎えての再読、改めて「老中」生活に糧を得た気持ちになりました。

著者は、悠々と老いを楽しみ、淡々と品格を保つために「老いの五か条」を説いています。健康維持・脳の鍛錬・感動する感性・奢らぬ心・おしゃれ感覚の5つです。

私にはクラブ長老方の年齢へ到達できる自信はありません。年相応に頑固さが増し、体力気力も衰えがちですが、「石」と「五か条」を座右に「老い」にチャレンジしたいと思っています。

愛石界の活性化と伝統文化の継承、脳を鍛えるに不足のない課題です。

（上）集石写真
（下右）研修会風景、（下左）オークション風景

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆裁 水石文化保存会
盆裁・水石文化を世界（無
形文化）遺産に登録する
運動を推進しています〕

西山巍

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協合理事
愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

最近、無法者の煽り運転や高齢ドライバーの交通事故が頻繁に報道されます。「許された危険」、そのたびにこの言葉を思い出すのです。民法の不法行為、刑法の故意、過失で語られるコンセプトです。車、列車、工場設備等々、もともと「危険」な代物ですが、

社会生活の利便性のために不可欠であるので、適切に使用していれば事故に対する

る刑事責任を問わない、という理論です。使用者への信頼を前提にした免責の概念です。多発する交通事故と事件、関わった車の使用者が「許されない危険」を創り出している

昨今の状況に不安が募りますし、ひとたび事故が起こるとマスコミは高齢者の弱点ばかりを強調します。「老人は危険」というステレオタイプは蔓延も大いに気になるところです。周囲には運転免許を返上した賢明な知人も

多くなってきました。「比較的」高齢の石友の皆さん、スピードを控えて安全運転、自重

許された危険・許された探石



を強めて煽られない運転を心がけましょう。私はもうしばらく免許返上は控え、石友に煽られながら探石を続けたいと思っています。そんな矢先、愛石クラブとよたの秋季探石会は安倍川でした。暑い9月末、レンタカー

（上）安倍川での集合写真
（中）中河内川、（下）5歳になったルナくん

の小型バスで14人、現地合流が6人、計20人が集いました。新静岡IC近くの本流での集合写真撮影のあと、中河内川、足久保川を楽しみました。今回は渡邊浩氣氏（全日本愛石協会前理事長）にも参加いただき、現場で指導を仰ぎました。それぞれがそれなりの成果に自己満足しながらの参加者各位、帰路はウトウト、がやがやと機嫌よく過ごした1日でした。行き帰りの新東名高速は山沿いを走る快適な「探石道路」です。進行中の6車線化工事の完成が待たれます。NEXCOさん、ありがとう。

小型バスでの探石は「運転手」氏に負荷がかかりますが、「乗客」にとっては気楽でありがたいものです。しかし多人数での団体行動が、地元を刺激することの気がかりに加え、河川法への抵触の危惧を感じます。河川法25条は愛石家には寛容で、社会通念上許される範囲内の探石行為には自由入川を認めています。「許された探石」なのです。

しかし自然保護、環境保全への意識が高まる中、社会通念は変化します。団体多人数の河川探訪が「許されない探石」にならぬための良識と節度を持たねばなりません。老婆心ながらの感想です。

めげずにやりぬく

「世界遺産」プロジェクト

〔盆栽 水石文化保存会〕
盆栽・水石文化を世界（無形文化）遺産に登録する運動を推進しています

（二社）全日本愛石協会副理事長
（二社）日本水石協合理事
愛石クラブとよた会長（旧藤岡愛石会）

西山巍

日本水石協会主催「第7回日本の水石展」が2月14～18日に東京都美術館で開かれます。10月下旬、出品石の事前審査が春花園

集合写真は、春花園内に最近完成した赤い橋での協合理事の皆さんです。いい方々です。

BONSAI美術館で行われました。全国愛石家からの名石が会場いっぱいに並びました。本展が楽しみです。笑顔としかめ面の

「日本の水石展」では、毎回、特別出品の「伝承石」が会場中央を陣取り、来客を引き寄せます。過年度の「重ね山」、「鎌倉」ほかに続き、昨年は「末の松山」（西本願寺蔵）が披露されました。それぞれが秘蔵の由来石です。500年もの昔から、この石たちが見たであろう時代と人物を想いながら鑑賞する楽しみは格別です。

門外不出同然のこれらの名石を展覧に供するには、尋常な努力では叶いません。小林国雄理事長と森前誠二事務局長の「力」に敬服し、感謝する次第です。

昭和63年に石乃美社（現・愛石社）から発刊された「伝承石」（高橋貞助氏編集）は由来石の集大成です。掲載162石が由緒書にエピソードを添えて紹介され

ています。その後、平成10年、13年、23年の3回、日本水石協会が「重要水石・用具写真集」を編纂し、300余の名石と所蔵者を記録しています。100年後には「伝承石」への殿堂入りを果たすであろう逸品ぞろいです。

昭和63年に石乃美社（現・愛石社）から発刊された「伝承石」（高橋貞助氏編集）は由来石の集大成です。掲載162石が由緒書にエピソードを添えて紹介され

これら「162石」と「300余石」は現在も「健在」でしょうか。時折、展示会で所蔵者が代わっている有名石にお目にかかることがありますが、一方で、いくつかは所在不明になっているのでは、と心配になります。名石を散逸・埋没させてはなりませんし、巷間に潜伏する名石は新たに世に出さねばなりません。

文化のたな卸し

企業は資産のたな卸しをして、決算を確定します。年金機構の現況調査は受給者の確認です。われらの水石文化の「証」である名石も、何年か毎には全国の「たな」を確認し、国勢ならぬ「石勢」調査を行うことが必要ではないでしょうか。「文化のたな卸し」です。その仕組みを開発し維持する責務は、全国組織としての水石協会・愛石協会の2協会にあるのでしよう。文化を守る共同プロジェクトに仕上げたいものです。

（上）春花園BONSAI美術館での集合写真
（下）「日本の水石展」出品石の審査風景



小さい石の展示会



設営が終わって記念写真 (2月14日)

期日 2月15日(土)～13日(日)

会場 愛知県 豊田産業文化センター内「喜楽亭」

後援 月刊『愛石』



石は面白い
手のひらサイズのたからもの

2日間の入場者数 約 700 人



1階会場風景 (2月15日)



八木哲也衆議院議員を囲んで (2月15日、2階会場にて)

- | | |
|--|--|
| 長久手愛石会
土岐石愛好会
天竜水石会
中京水石会
石陸会
(順不同) | 愛石クラブとよた
桑名愛石会
北勢愛石会
知多水石会
大垣石誠会
(他・個人参加) |
|--|--|



湘南海岸石 「長寿・百・千・万」 5×10×4 (上) 西山 巍 (愛石クラブとよた)



土岐石・天竜川石 「花の下で遊ぶ」 6×8×2 (右) 奥村薫績 (愛石クラブとよた)



愛知川石 「岸壁」 4.5×6×3.5 渡邊浩氣 (中京水石会)



黄柳野石 「旅人」 6.5×13×7
加藤建夫（長久手愛石会）



古谷石・静岳石 「秀峰三山」 5×9×4（上） 落合東一（愛石クラブとよた）



静岳石 「だんらん」 13×12.5×6（左） 日比谷照夫（愛石クラブとよた）



リグリア石(イタリア)「天高く」 12×12×9(左) Tom Elias(北米鑑賞石協会)



砂漠石(左・米国)・海岸石(南部加州)「カリフォルニアの太陽」 7×9×4(左) Tom Elias(北米鑑賞石協会)



員弁川石「巡礼の路」 3.5×8.5×4(中) 種村清一(北勢愛石会)



員弁川石 「天っ風」 6×12.5×5 (中) 伊藤 忠 (北勢愛石会)



員弁石 「火光導」 7×11×6 中山雅幸 (桑名愛石会)



土岐石 「盆踊り」 2×3×2 (平均) 山内善計 (愛石クラブとよた)



湘南海岸石・天竜川石・庄内川石 「親子と段々畑」 8×6×4 (上)
大平政一 (愛石クラブとよた)



姫川石 「天空」 11×8×8 (中左) 成田宣和 [煮石] (石睦会)



十勝石 (黒曜石) 「霜降り十勝」 6×10×5.5 中田富男 (石睦会)



千軒石 「秀嶺抱湖」 15×8×12 菅生峰隆（札幌愛石会）



三倉石 「初夢」 13×6×9 金子正一（三ヶ日水石会）



静岳石 「舞」 4×6×2 佐藤正捷（菊川水石会）



豊似石 「浮島」 14×7×8.5 杉山有良 (石睦会)



根尾菊花石 「趣味のつどい」 9.5×8×4 (上) 小池金八 (長久手愛石会)



土岐石 「土岐の誌」 10×10×6 丹羽寿石 (土岐石愛好会)



神居古潭石 「茜里」 13×9×6 瀧山徳雄 (美唄愛石会)



神居古潭石 ^{おが}「希」 5×14×3 瀧山徳雄 (美唄愛石会)



神居古潭石 「望郷岬」 14×5×6 瀧山徳雄 (美唄愛石会)



土岐石 「三春」 13×11×6 (左) 藤城水中花 (土岐石愛好会)



土岐石 「太古樹心」 12×10×6 (上) 藤城愛石 (土岐石愛好会)



土岐石 「靴が鳴る」 9×15×4 柳川明石 (土岐石愛好会)



神居古潭石 「三山」 15×7×10 鈴木崇浩



神居古潭石 9×7×3 立畑健児 (月刊『愛石』)



八溝石 「祈り」 4×14×3 佐藤健一郎 (八溝石愛好会)



亀甲石 「バベルの塔」 9×15×9 高橋 稔 (秩父石酔会)



竜岩石 「秩父風穴」 15×11×11 高橋 稔 (秩父石酔会)



揖斐川石 「泰山」 9×3×6 西山 巍 (愛石クラブとよた)



天竜川石 「胸突き八丁」 10×10×5
山本一彦 (愛石クラブとよた)



豊似石 「洋犬」 11×10×4 武田卓治 (長久手愛石会)



菊花石他 「一句」 5×14×4 (右) 津坂秀雄 (愛石クラブとよた)



雨生山石 13×9×15 山田 茂 (愛石クラブとよた)



御浜海岸石 「大願」 12×8.5×3 大島隆志 (中京水石会)



員弁川石 「舞」 8×6×5.5 長岡吼博 (長久手愛石会)



矢田川石 「秋の味覚」 3.5×7.5×1.5 (左) 萩原 清 (長久手愛石会)



瀬田川石 「越前海岸」 11×9×5.5 (上)
加藤 力 (長久手愛石会)



瀬田川石 「秘湯の煙」 6.5×7×4.5 小川清市 (中京水石会)



壺石 「壺石三態」 5×8×5 (左)
大平政一 (愛石クラブとよた)



天竜川石・可児川石・員弁川石 「秋～冬」 5×7×1.5 (右) 藤井芳行 (石睦会)



神居古潭石 「山彦」 9×8×6 水上祥邦 (旭川水石会)



土岐石 「影」 10×15×8 高柳一参 (石陸会)



揖斐川石 15×9×11 菅野忠雄 (石陸会)



菊花石 13×9×6 (中) 神谷義春 (大垣石誠会)

めげずにやい抜く
世界遺産PJ(プロジェクト)
無形文化遺産
Intangible Cultural Heritage

(一社)全日本愛石協会副理事長

(一社)日本水石協会理事

愛石クラブとよた会長

西山 颯



(上) 台師原田和也氏の工房を訪ねて
左から原田氏、Elias 氏夫妻、Nguyendo 氏夫妻、筆者
(下) 中京水石会の皆さま

小さい石の世界

北米鑑賞石協会会長の Elias 博士夫妻が京都での大観展訪問のあと、友人の愛石家 Nguyendo 氏夫妻を伴い名古屋へお越しになりました。訪日前に連絡しておいた石展情報を見て、この日、中京水石会主催「掌上石・小品盆栽を愉しむ」展を訪ね、古民家での展示と小川清市会長ほか近隣愛石団体幹部との意見交換を愉しまれました。今回の訪名は数カ月ぶりで台師の原田和也氏の工房を訪ね、依頼しておいた台座の引き取りも目的でした。カリフォルニア産の小物石を見事に引き立たせた台座の出来栄えを満足げに確認していました。脇役台師の面目躍如です。新たに

数石の作台を発注し、名古屋守山区の工房を後にした一行、ランチは近所のお店での定番「味噌カツサンド」。ご当地のB級グルメにも満足して帰国しました。

博士は米国の盆栽水石界のリーダーで世界盆栽友好連盟の顧問でもあります。杖を持ち、ゆっくりと歩く大柄で温和なご本人、歯に衣着せぬ語り口で快活なご夫人との二人三脚、お二人の気力あふれる行動力にはかないません。世界を飛び回る

中、アジアではフィリピン、ベトナム、インドネシア、ヨーロッパではイタリア、各国の水石事情と若い愛石家の台頭を語ってくれました。日本においても、水石界の担い手の世代交代と諸外国との一層の交流促進が望まれます。

「掌上石」は10〜20cm、「小品石」は5〜10cmと「愛石事典」は言っています。それ以下はかつて楽石氏が提唱した「寸石」。2月15日、16日に豊田市で開催する「小さい石の展示会」は15cm以下が対象です。

このところ、私の目はつい小物石に向いてしまいますが、石展準備の故だけではなさそうです。今回の掌上石展をはじめ、各地で小物石を展覧する機会が多くなりました。来場者という需要あつての石展開催です。ひいき目でしょうか、小品石を見る世間の目、特に若い方々や女性層のキラキラした眼差しが気になりました。月刊『愛石』での「愛石女子」と「ミニ水石」の連載企画も奏功しているのでしょうか。

小物石から感じる山水の大きさや景情の味は格別です。遊び心、童心などをカジユアルに表現する、小さい石の世界も楽しいものです。

2月の「小さい石の展示会」にはElias博士が4石を出品、会場の喜楽亭へもお越しただくことになっています。準備おさおさ足りなく、脇役幹事の面目躍如といわれる石展にしたいたいです。皆様お越し下さい。

石は面白い!

手のひらサイズのたからもの

小さい石の展示会

各地の愛石家所蔵の小さい石を多数展示します。形や質感、色合いなど、それぞれの美しさをご覧ください。会場は大正時代に建てられた町屋建築「喜楽亭」です。

2020年
2月15日(土)-16日(日)
9:00-16:00 ※16日は15:00まで
先着順にてお土産石の用意もございます!

入場無料
駐車場3時間無料

めげずにやい抜く 世界遺産PJ(プロジェクト) 無形文化遺産 Intangible Cultural Heritage

(一社)全日本愛石協会副理事長
(一社)日本水石協会理事
愛石クラブとよた会長

西山 巍

中村俊介
世界遺産
理想と現実のはざままで

岩波新書
1791

(上)「小さい石の展示会」チラシ
(下右) 喜楽亭会場風景 (昨年)
(下左) 『世界遺産—理想と現実のはざままで』



愛石連合会

春は名のみ、「立春」も過ぎ、2月15日・16日には、愛知県豊田市内で「小さい石の展示会」を開催しています。主催は「愛石連合会」。いかめしい名称ですが、昨年発足した愛知・三重10団体の集まりです。今年は岐阜県から大垣石誠会にも参画いただきました。会員49人と全国・米国の愛石家、盆石家13人が会場の喜楽亭を飾ります。昨年を上回る盛會を期待しながら、関係者一同が皆様をお迎えいたします。ご来場いただき、「石は面白い」を体感して下さい。

『世界遺産—理想と現実のはざままで』(岩波新書・中村俊介著)が出版されました。世界遺産を語る書籍は世に多いのですが、本書は無形文化遺産にも言及し、それらを取り巻く課題を分析した興味深い内容のものであります。有形遺産とは違い「無形遺産はそれを支える社会集団が衰退すれば簡単に消えていく」「社会とライフスタイルの変質

で、伝統文化も恒常的に固定した形では存在しえない」とのくだりを、当然のことと思いつながらも強く受け止めました。日本の石の世界、文化を支える各地の愛石団体が健在であるのか、水石文化が現代社会から孤立していないか、が気になります。伝統の継承と社会変化への対応、矛盾するかもしれない課題にどう対処すべきなのでしょう。

実は昨年5月、連合会への参加を呼びかけるために、全国愛石団体名鑑(月刊『愛石』)に登録されている岐阜県7団体代表者に文書と電話交信をしたところ、そのうちの4団体が活動停止であることが判明しました。会員の高齢化、会員数の減少と後継者不在で団体が解散状態になったのです。ご高齢の代表者の皆様からは「若い衆、よろしく」とのお言葉をいただきましたが、こちらもそんなに若くはなく、さてどうすべきかと悩みます。文化を支える集団が一つ二つと消滅する現実には強い危機感を覚えます。全国300の愛石団体の永久存続を望みます。

この危機をなんとかせねば、という思いがあった気負いはありませんが、何とかならないか、との気持ちでの活性化行事、「第2回小さい石の展示会」です。愛・三・岐、10団体の熱さが世間に伝われば幸いです。

*ちなみに「立春」を含む「二十四節季」は「太陽の1年の動きの観察を通じて発達した中国人の時間と実践の知識」という中国の無形文化遺産です。(2016年ユネスコ登録)

〈ご意見・お問い合わせ等のメール〉 b_s_sekaiisan@yahoo.co.jp 〈署名実績〉 28,806人 (2020年1月23日現在)



会場の一角で記念撮影



全愛協関西展懇親会会場で乾杯の音頭を取る筆者
この後のオークションも楽しみのひとつ

めげずにやり抜く
世界遺産PJ(プロジェクト)
無形文化遺産
Intangible Cultural Heritage

(一社)全日本愛石協会副理事長

(一社)日本水石協会理事

愛石クラブとよた会長

西山 巍

S N S の石仲間

大寒の季節、全日本愛石協会関西展と、共催の山陽愛石会石展を岡山後楽園に訪ねました。穏やかな晴天の下で、会場の鶴鳴館は今年も盛会でした。関係の皆様、ご苦勞様でした。

名古屋からの新幹線は、木曾川、長良川、揖斐川、犬上川、愛知川、野洲川、瀬田川を渡ります。この間、米原駅を過ぎてから車窓右側に広がる近江平野には大小の里山が点在します。いつかはこんな姿の山形石に出会いたいと期待しながら眺めることにしています。

京都からは鴨川、桂川。神戸のトンネルを抜けると武庫川、加古川、揖保川、吉井川、旭川を経て岡山に到着です。大阪以西での探石経験が少ない私です。瞬時に通り過ぎる河原を車窓から見つめて、「品定め」ならぬ「川定め」を楽しみました。

関西展の会場には出品者の多くがすでにお越しでした。各地を代表するベテラン「石キチ」の産地情報はいつも新鮮ですし、この日に植山一さんと吉田洋一さんからお聞きした武勇伝、気持ちほどに足腰が動かないことを承知の海岸山野での探石談義がなんとも楽しいものでした。話が尽きません。

苦勞して収集した良石をご提供いただいた石友に感謝しながら、その夜の酒席のオークションで数石を落札し、私の「探石」を終えました。

世はインターネット・SNSの時代です。石趣味の普及につながればと2年前に娘の手ほどきで始めたインスタグラム、ポストインがすっかり私の日課になっています。簡潔・随時・迅速な可視情報の受発信が魅力です。

関西展会場で、二人の「インスタ仲間」に対面できました。今月号の「愛石女子」に登場した才媛、藤原さやさんは私の発信をみて山陽愛石会に入会されたとのこと、大変うれしく思いました。

もうお一人は同会会員の金池努さんです。インスタ、YouTube、Facebookで探石と石展画像を公開する「デジタル愛石家」です。母上の介護の合間を縫って会場へお越しいただき、面談が叶いました。人情味あふれるお人柄、改めて私自身の親不孝加減を反省させられました。SNSでつながる石仲間は確実に増加しています。私のインスタは予期した通り、若い方々の石への関心喚起にもお役に立てていることを実感しています。

あと2年で「3G停波」ガラケーの一部が不通になります。これを機に高齢者の多くがスマホに機種替えして「#石」の世界に参入されることを期待しながら、せっせとインスタ映えを目指す毎日です。



(上) 地元のTVにトム夫妻と出演
(左) 活気にあふれる2階会場

心をとらえる

めげずにやり抜く 世界遺産PJ(プロジェクト)

無形文化遺産
Intangible Cultural Heritage

(一社)全日本愛石協会副理事長
(一社)日本水石協会理事
愛石クラブとよた会長

西山 巍

参りました。新型コロナウイルス騒動の中で、とうとう私もフェイク情報拡散の片棒を担いでしまいました。

2月25日のことです。新型コロナウイルスの話題でもちぎりの毎日、同期の友人から1通のメールが届きました。添付された書類には、的を射た(?)感染症情報が記載されていましたので、早速私のメール交信相手に転送したものでした。こともあろうに、その翌日に偽物情報であることが報道され、受信者にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

スピードを旨とする私、裏を返せば早とちりの輩です。余分な仕事を作ってしまった。「お叱りは真摯に受け止め再発防止を図り丁寧に説明し信頼回復に努める所存」と政治家のような言葉を受け入れる皆様方ではないこと重々承知ですが、私の失策を好意的に受け止めていただいた旨の返信メッセージには救われました。

未知の現象や切迫した危険に直面した時に、この愉快犯はしっかりと大衆の「心をとらえた」のです。私自身の不注意を反省しながら、その洞察眼に脱帽しました。新型感染症が時を経ず終息することを祈るばかりです。

騒動の少し前、2月15、16日に開催した「第2回小さい石の展示会」は、昨年同様盛会でした。愛石連合会10団体の皆さん、お疲

れさまでした。各地からの出展、お土産石ご提供、ご来場の方々にお礼申し上げます。

別表に石展情報をまとめてみました。集客広報活動には特に力を入れ、昨年の来場記帳者全員へのDMと官民施設80か所への石展案内の配布が効果的でしたし、TV、ラジオ、新聞、情報誌等の地元メディアでの多頻度の露出が奏功したかと思えます。

会場での出品63人の創意豊かな展示は秀逸でしたが、中でも、米国からお越しいただいた北米鑑賞石協会トム・イライアス会長の「外国の小さい石」の特別展示と、鈴木さゆりさんの細川流盆石が目を引きました。さらにもう一人、貢献者がいました。我が愛石クラブとよたの新会員・山岸美紗さんです。彼女がデザインした石展案内のチラシは、若者感覚あふれるキュートな図柄で、観客増員の影の力になったのです。トム、鈴木、山岸の3氏は、さしずめ今場所の「殊勲賞」というところでしょうか。

石展後の反省会では、来年の「第3回小さい石の展示会」の開催を確認しました。引き続き、大衆の「心をとらえる」試みを行いたいと思います。

第2回小さい石の展示会		
展示	会場面積	152㎡
	出品者	63人
	展示席	67席
	展示石	200石
	来場者	600人
時間	お土産石	300個
	準備会議	20時間
	(9月~2月:1/月)	
	会場設営	90分
広報	搬入展示	120分
	撤収	60分
	チラシ	1500部
経費	ハガキ	1200部
	運営費	18万円
	出品料	3000円/人

〈ご意見・お問い合わせ等のメール〉 b_s_sekaiisan@yahoo.co.jp 〈署名実績〉 28,913人 (2020年2月末日現在)



和傘生産の油引き（防水のために和紙に油を塗る作業。1950年頃の我が家）



竹切り、割る工具（父親の遺品）

タピオカ・和傘 千歳愛石同好会

 **めげずにやり抜く**
世界遺産PJ(プロジェクト)
無形文化遺産
Intangible Cultural Heritage

西山 巍

(一社)全日本愛石協会副理事長
(一社)日本水石協会理事
愛石クラブとよた会長
千歳愛石同好会顧問

人気というからタピオカティを飲んでみました。こんな飲み物がなぜブレイクしたのかと驚き、不思議です。マーケティングの力でしよう。

タピオカに関して、私には昔々の思い出があります。今から65年以上も前のことです。私の出身地、当時の紀州海南市は、和傘、漆器、棕櫚製品の地場産業で活気にあふれていました。我が家は和傘屋で、作業場では家人と数人の職人が竹を切り、加工し、傘骨を組み立てる作業に毎日忙しそうでしたが、なにせ零細事業です。小学生の私も労働力で、放課後は近所の子供たちとともに小作業を手伝い、小遣い稼ぎをしました。

思い出させてくれました。

洋傘に市場を席捲されて、昭和中期には全国から和傘産業が消えたのです。ヒト・モノ・カネが足りなかったのでしょうか。かつての雨の日の必需品・番傘が、今はニッチ(隙間)市場の伝統工芸品になってしまったのです。和傘と水石、分野は違いますが、いずれも平安時代から続く日本文化の固有種です。消滅させぬよう持ちこたえなければなりません。

最重要の傘張りはベテラン職人の担当、数枚の扇形の紙を竹骨に貼り合わせます。時代劇映画で見る浪人の傘張り長屋の場面です。足元には糊桶、この糊がなんとタピオカでした。海南郷土史には、大正時代からインドネシア産のタピオカが使用されていたと書かれています。このタピオカ粉を使った親父手製の「わらび餅」が子供たちを喜ばせてくれたものでした。昨今のブームが、貧しい時代のスイーツ

話は変わりますが、新年早々、月刊「愛石」2月号に掲載された「入会のすすめ」欄が目にとまりました。会員が1人になった千歳愛石同好会の会員募集広告です。中山源七会長の気概に共感した3人が新入会員となりました。なんと酔狂な！道内から瀧山徳雄さん、愛知からは落合東一さんと私です。会員4人の平均年齢は77歳、高齢愛石団体の一つが再生し、活動を進めることになりました。今の時代、モノの移動に距離は邪魔をしません。カネ？ 不如意ながら少額なら何とか。結局、趣味と文化を「持ちこたえる力」はヒトの心だということを知らされたのです。

全国の愛石団体数はこの5年で2割減少し、294団体にまで縮小してしまいました。中山さんの試みが全国のモデルケースになればよろしいと念じながら、「めげずにやりぬく」世界遺産PJへの心を再確認した次第です。タピオカの話が飛び火してしまいました。